

教育・研究などへの取組状況(令和 7 年度)

総合工学システム学科	系・コース
	一般科目系(化学)
職階	氏名
講師	吉川明里

項目	取組状況
教 育	<p>【高専における担当科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「化学 2」(本科 2 年) <p>【他大学における担当科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TA:関西医科大学「配属実習」 <p><u>工夫した点</u></p> <p>授業では評価基準を明確に示し、単位修得や成績向上といった各自の目標に照らして、学生自身が考え主体的に取り組むよう促した。また、つまづきのある学生を取りこぼさないよう丁寧に状況を把握し、適宜声掛けや支援方法の工夫を行った。</p>
研 究	<p>【研究テーマ】</p> <p>Caskin1 欠損による感受性増大の機序の解明</p> <p>【論文】</p> <p>Tayo Katano, Akari Yoshikawa, Meiko Kawamura, Manabu Abe, Kohtarou Konno, Kazuhiko Nishida, Masahiko Watanabe, Kenji Sakimura, Takuya Kobayashi. Brain-enriched guanylate kinase-associated protein in the spinal dorsal horn regulates mechanical allodynia in male mouse neuropathic and inflammatory pain model. The journal of Pain. 2026</p> <p>【学会発表】</p> <p>吉川明里, 片野泰代, 阿部学, 崎村建司, 小林拓也. Caskin1 欠損マウスを用いた体性感覚の増大における分子機序の解明. 第 98 回 日本生化学会大会. 2025.</p> <p>共同演者としてほか 2 件</p>
社会貢献	博士課程学生のため、実績なし

<記入上の注意> ※可能な限り 1 ページ/年度にまとめてください。

教育: 該当年度の担当科目, 担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載。

研究: 該当年度の研究テーマ, 学外発表実績, 外部資金獲得状況, 共同研究などを記載

社会貢献: 該当年度の公開授業, 出前授業, 学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況(令和6年度)

総合工学システム学科	系・コース
職階	氏名
講師	吉川 明里

項目	取組状況
教 育	<p>【高専における担当科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「化学2」(本科2年) <p>【他大学における担当科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TA:関西医科大学「配属実習」 <p><u>工夫した点</u></p> <p>学生が段階的に理解を深められるよう、基礎から応用へとつながるスモールステップを意識してプリントを作成した。学生が自らの学習姿勢を主体的に捉えられるよう、取り組みの選択は自身の判断に委ねられていることを明確にした。その上で、個々の姿勢を尊重しつつ、学習リズムを崩しつつある学生に対しては医師の確認も踏まえながら、目標設定や取り組み方をともに整理し、継続的な学習につなげた。</p>
研 究	<p>【研究テーマ】</p> <p>オキサリプラチン誘発性神経障害性疼痛における Caskin1 の機能解明</p> <p>【学会発表】</p> <p>吉川明里, 片野泰代, 阿部学, 崎村建司, 小林拓也. オキサリプラチン誘発性神経障害性疼痛における CASK-interacting protein 1(Caskin1)の役割. 第97回 日本生化学会大会. 2024.</p> <p>共同演者としてほか4件</p>
社会貢献	博士課程学生のため、実績なし

<記入上の注意> ※可能な限り1ページ/年度にまとめてください。

教育:該当年度の担当科目, 担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載。

研究:該当年度の研究テーマ, 学外発表実績, 外部資金獲得状況, 共同研究などを記載

社会貢献:該当年度の公開授業, 出前授業, 学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況(令和5年度)

総合工学システム学科	系・コース
職階	氏名
講師	吉川 明里

項目	取組状況
教 育	<p>【高専における担当科目】</p> <p>・「化学2」(本科2年)</p> <p><u>工夫した点</u></p> <p>化学2において、無機化学や芳香族化合物の分野では、知識伝達中心の授業に偏らないよう、実験を積極的に取り入れた。これにより、実験技能の習得と試薬に触れる機会の充実を図った。また、高分子化合物の分野では、各自が関心のあるテーマについて発表を行わせることで主体的な学びを促し、あわせて他者を意識した協働的な取り組みにつなげた。</p>
研 究	<p>【研究テーマ】</p> <p>神経障害性疼痛における Caskin1 の機能解明</p> <p>【論文】</p> <p>Tayo Katano, Kohtarou Konno, Keizo Takao, Manabu Abe, Akari Yoshikawa, Tsuyoshi Miyakawa, Kenji Sakimura, Masahiko Watanabe, Seiji Ito, Takuya Kobayashi. Brain-enriched guanylate kinase-associated protein, a component of the post-synaptic density protein complexes, contributes to learning and memory. <i>Science Reports</i>. 2023.</p> <p>【学会発表】</p> <p>共同演者としてほか4件</p>
社会貢献	博士課程学生のため、実績なし

<記入上の注意> ※可能な限り1ページ/年度にまとめてください。

教育:該当年度の担当科目,担当科目の取組状況(工夫・改善した点)などを記載。

研究:該当年度の研究テーマ,学外発表実績,外部資金獲得状況,共同研究などを記載

社会貢献:該当年度の公開授業,出前授業,学協会活動などを記載